

# 令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果 ー分析から見えてきた成果・課題と今後の取組についてー

区 名 此花区

学 校 名 春日出小学校

学校長名 杉本 善幸

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

### (2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・春日出小学校では、第6学年46名

## 令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語、算数のいずれの教科についても平均正答率は、全国、大阪市のそれを下回っている。算数においては大阪市平均と比べて-6.3ポイント、全国平均と比べて-7.5ポイントと差がつく結果となった。中でも「図形」についての平均正答率が37%と課題が見られた。国語においては大阪市平均と比べて-5ポイント、全国平均と比べて-5.2ポイントと健闘している。領域別に見ても全国平均と比べて、「書く」領域で-2.8ポイント、「読む」領域で-4.5ポイントと差は小さく、「情報の扱い方」の領域においては全国平均を0.7ポイント上回っている。「話す聞く」領域においては全国平均を8.1ポイント下回っており、中でも「書くこと」についての平均正答率が23.9%と課題が見られた。

## 分析から見えてきた成果・課題

### 教科に関する調査より

#### 〔国語〕

昨年度より、研究教科を国語に「相手に伝わるように自分の思いを話す子どもを育てる『語彙を広げ、自分の考えをもち表現する』」と研究課題を設定し取り組みを重ねてきた。また、SST（ソーシャルスキルトレーニング）に発達段階に応じて取り組み、コミュニケーション力やそれに必要な語彙力の伸長を目指してきた。その結果、各領域で全国平均と比べて下回っているものの、それ程の差はなく、健闘している。また、委員会活動やたてわり班活動等、学校生活の様々な場面で高学年の児童が活躍している姿からその成果も窺える。一方で、「話す聞く」領域において、問題を正しく「読む」力や自分の考えをまとめて「書く」力に課題が見られた。

#### 〔算数〕

問題発見・解決の学習を積極的に設定し、各場面で言語活動を充実させ、問題解決の過程や結果を振り返り、よりよい解決方法を求めて検討する授業展開を心掛けてきた。しかし、調査結果においてそれらの成果はまだ確認できない。それは昨年同様「図形」領域において、図形の意味や特質をもとに、作図の仕方を多様に考える力や作図の手順からどのような図形ができるかについて判断したり、作図の仕方を筋道立てて説明したりする力に課題があるためだと推測できる。

### 質問紙調査より

「国語の授業の内容はよく分かる」「国語の授業で、言葉には、相手との好ましい関係をつくる働きがあることにについて学んでいる」の質問において肯定的な回答をした児童の割合が全国を大きく上回っている。一方、「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している」「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」の質問において肯定的な回答をした児童の割合は全国を大きく下回っている。結果、「国語の勉強は好き」の質問において肯定的な回答をする児童の割合が38.3%となっている。主体的に話し合いに参加できるようになるためのスキルアップと授業展開や支援の仕方等について、より深く研究し取り組んでいく必要がある。「学校の授業時間外の学習時間」について、1日1時間より少ない児童が平日76.3%で全国の約1.8倍、休日95.7%で全国の約1.2倍となっている現状がある。家庭での自学・自主の習慣を身につけさせていくことや環境を整えていくことも必要である。

## 今後の取組(アクションプラン)

子ども同士が対話を通じて知識や技能を相互に関連付けて習得し、社会における様々な場面で活用できる「生きる力」を育むための有効な手段・方法として「協働的な学習」がスタンダードになってきている。本校でも引き続き「自分の思いを相手に伝わるように話す子どもを育てる」を研究主題に、言語の習得、言語を活用する力の習熟、相手の気持ちを大切にする心情の育成に取り組んでいく。また、本年度も研究教科を国語に設定し、特に課題である「読む」力と「書く」力に加え語彙力の向上を目指す。その中で、情報を正しく読み取り要約すること、読み取ったものから考えを形成することに加え、その考えを表現するとともに、交流してその考えを広めたり深めたりする力（＝総合的読解力）を育成し、伝え合う力のさらなる向上を研究の視点に置き、横断的に系統立てた指導を計画的に行うことで、多様な見方ができて自主的に判断し行動することができる「生きる力」を備えた子どもを育てていきたい。

## 【 全体の概要 】

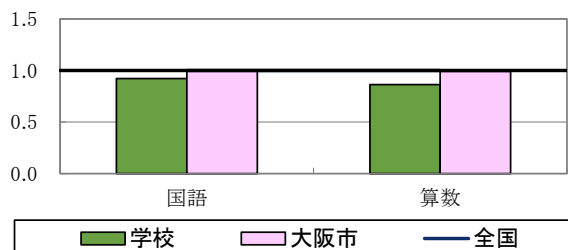
### 平均正答率（％）

	国語	算数
学校	62	54
大阪市	67	62
全国	67.2	62.5

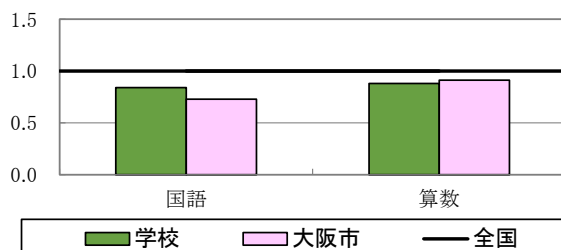
### 平均無解答率（％）

	国語	算数
学校	4.0	3.0
大阪市	3.5	3.1
全国	4.8	3.4

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



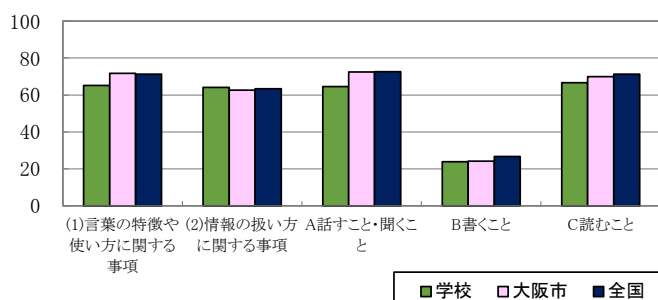
## 【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	5	65.2	71.7	71.2
(2)情報の扱い方に 関する事項	2	64.1	62.6	63.4
(3)我が国の言語文 化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	3	64.5	72.4	72.6
B 書くこと	1	23.9	24.2	26.7
C 読むこと	3	66.7	69.9	71.2

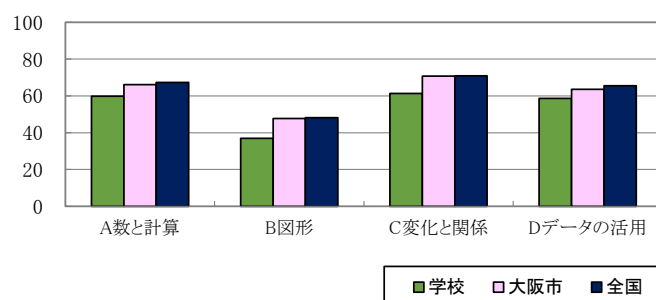
## 【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	59.8	66.1	67.3
B 図形	4	37.0	47.8	48.2
C 測定	0			
C 変化と関係	4	61.4	70.8	70.9
D データの活用	3	58.7	63.6	65.5

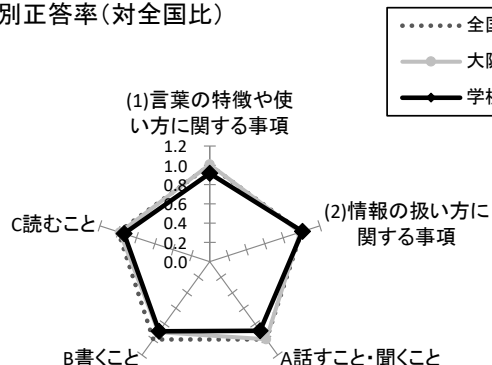
国語 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



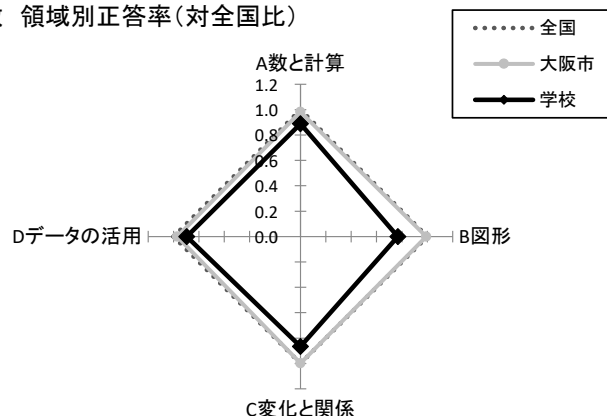
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語 領域別正答率(対全国比)



算数 領域別正答率(対全国比)



# 児童質問紙より

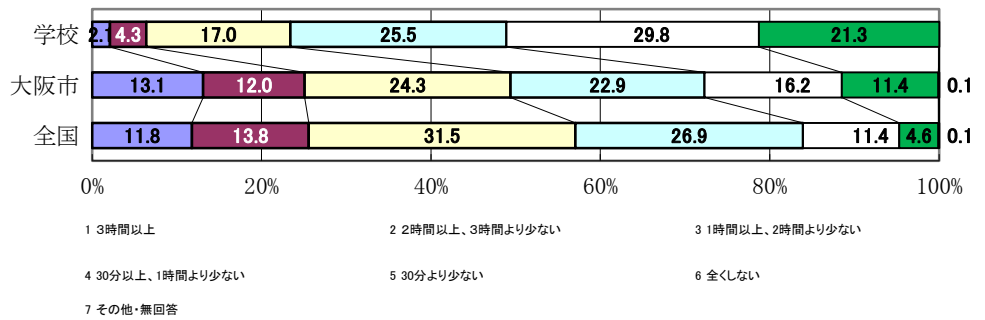
1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号

質問事項

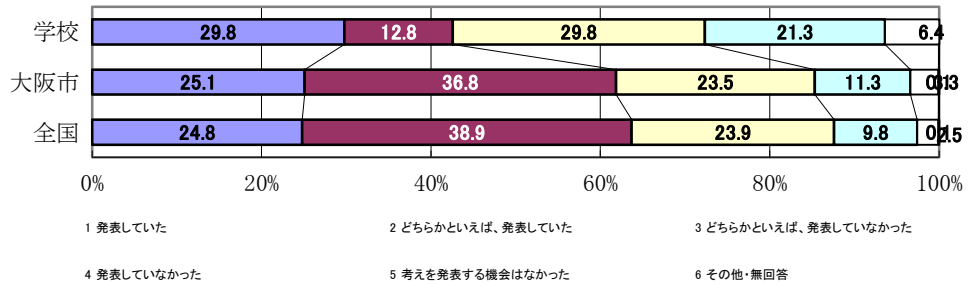
17

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含みます）



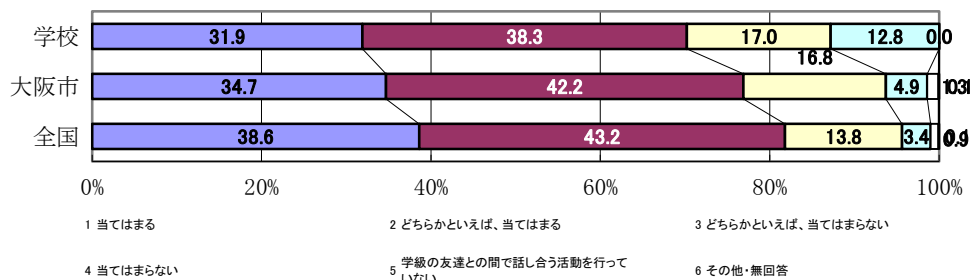
32

（5年生までに受けた）授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



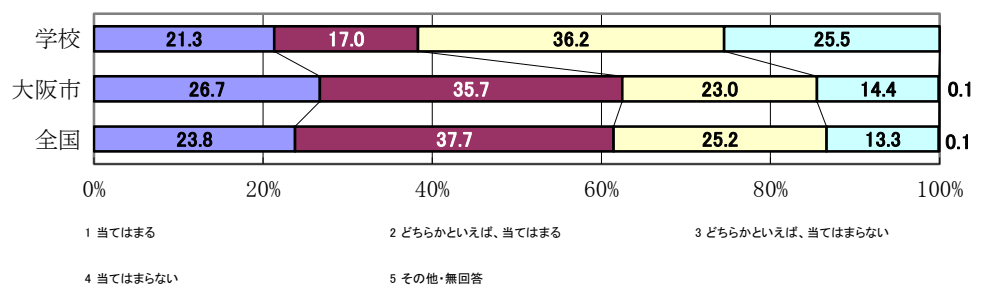
36

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか



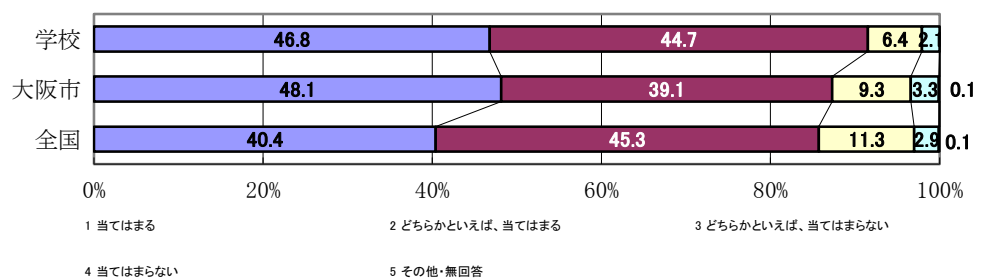
43

国語の勉強は好きだ



45

国語の授業の内容はよく分かる



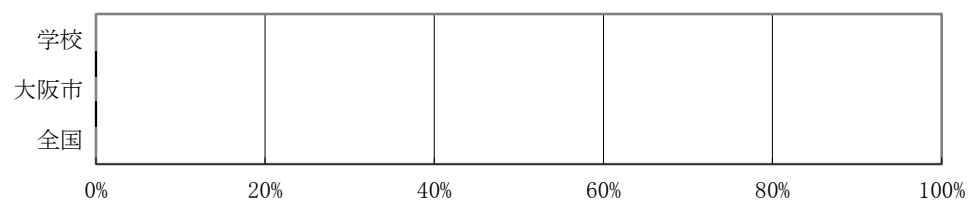
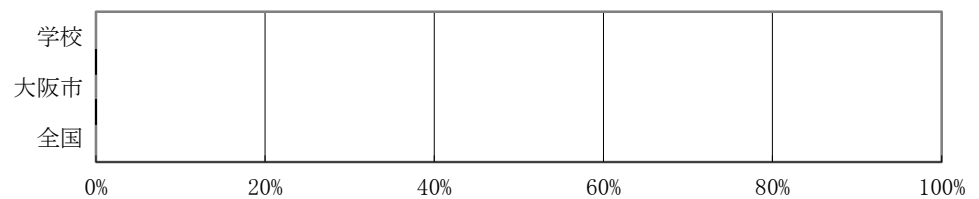
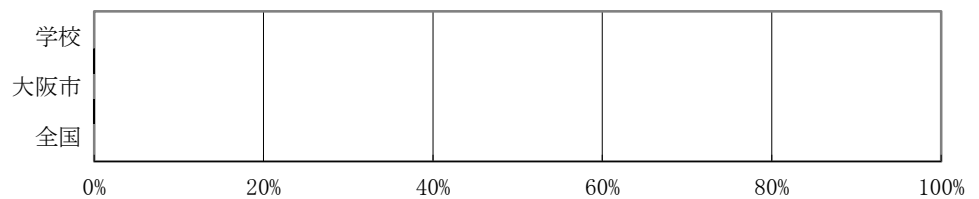
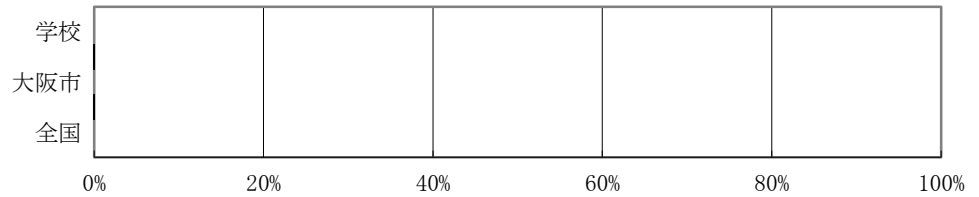
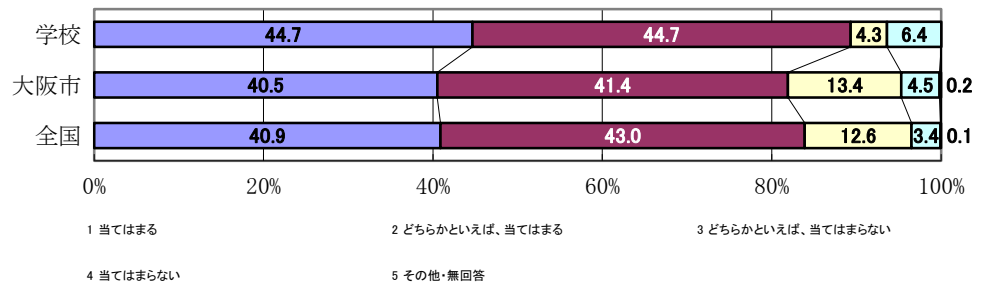
# 児童質問紙より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号  
質問事項

47

国語の授業で、言葉には、相手との好ましい関係を作る働きがあることについて学んでいる



# 学校質問紙より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

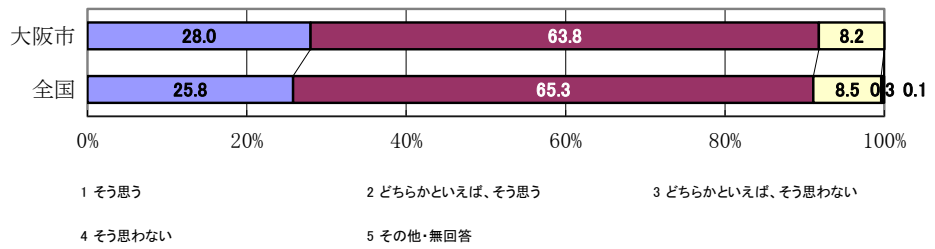
質問番号

質問事項

8

調査対象学年の児童は、熱意をもって勉強している

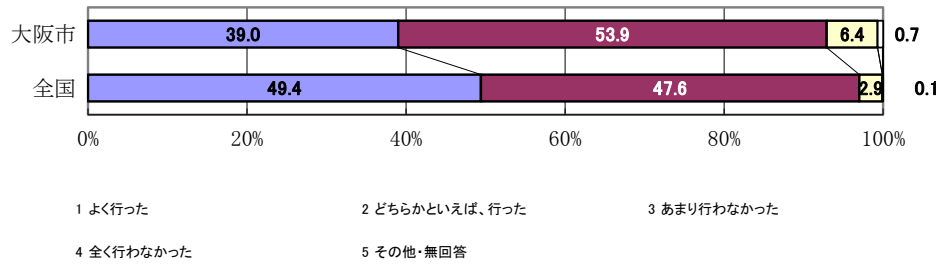
学校「どちらかといえば、そう思う」を選択



12

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えた

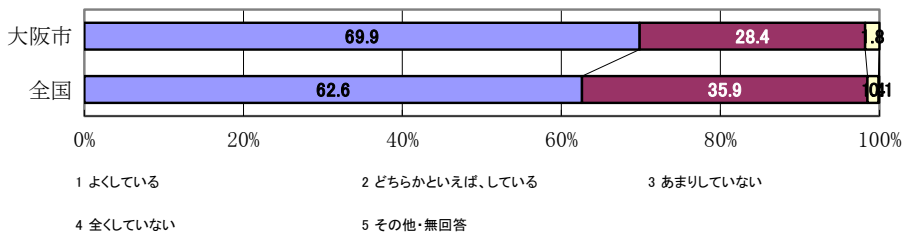
学校「どちらかといえば、行った」を選択



22

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っている

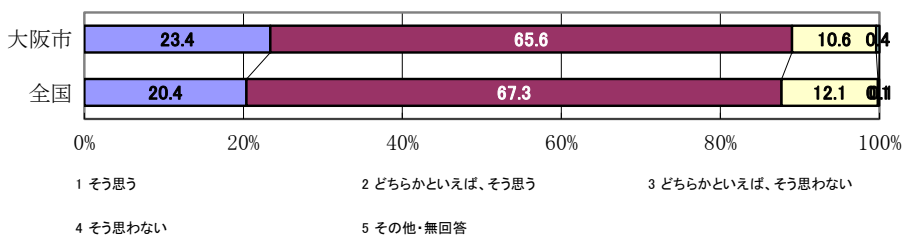
学校「どちらかといえば、している」を選択



28

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができている

学校「どちらかといえば、そう思う」を選択



29

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている

学校「どちらかといえば、そう思う」を選択

